

# 学生へのメッセージ 「医の道」



No.15 令和4年4月4日(月) 2022-7号 (隔週発行)

発行責任者: 神戸総合医療専門学校・松江総合医療専門学校理事長、新須磨病院院長 澤田勝寛

isonare@ka2.so-net.ne.jp 毎月第2、4月曜発行 令和3年(2021年)9月13日創刊

## ◆新入生の皆さんへ

入学おめでとうございます。医療を志す仲間が増えて大変嬉しく思います。皆さんが医療を志して本当に良かったと思えるように教職員一同サポートしていきます。

進路に関しては色々な悩みがあったでしょう。それだけ皆さんは若くて多様性があるわけです。その中で医療従事者を目指すという決断をされたことは、正解であったといえます。

オープンキャンパスに来られた方の中には、私の話を聞かれたかたもおられるでしょう。いつもお話していることは、**医療はとってもいい仕事**ということです。理由は3つです。

ひとつ目は**安定した仕事**であるということです。今回のコロナ禍の中でエッセンシャルワーカーという言葉が聞かれたと思います。

これは、社会基盤を作る仕事に従事している人のことで、世の中がどんなになっても必要とされる職場で働いている人たちのことです。どんなに経済が疲弊しても、戦争状態になっても、医療は必要不可欠であり、今回のようなパンデミックではなおさらその重要性が強調されたわけです。

コロナで失業した人も大勢いますが、医療従事者に失業はありません。そういった意味で安定した仕事であるといえます。

理由の二つ目は**目的がはっきりしている**ことです。医療の目的は「体を病み心を病んだ人の、体を癒し心を癒すこと」です。これほどはっきりした目的はありません。その、技術と知識を習得し、国家試験に合格し、その技量を目的のために発揮するのです。

大学で経営学部や法学部に入った人が、いざ卒業し就職するとなっても大学で学んだことが活かされる就職がないのがほとんどです。何のための大学生活であったかと疑問を感じる人が少なくありません。

その点、専門職養成の学校の学生には進路に迷いはありません。私は医師を目指して医学部に入り卒業後44年間外科医をしています。医学部をでて、お坊さんや小説家になった人もいますがごく稀です。皆さんも、迷うことなく、看護・理学・作業の道を進んでください。

理由の三つ目は、**非常にやりがいのある仕事**で仕事を通じて自分も幸せになれる仕事だということです。先に述べたように、患者さんとは体を病み心を病んだ方々です。そのような人たちに医療を提供することによって、その傷が癒えるのです。傷みが取れるのです。元気になれるのです。歩けるようになるのです。自分で服が着れるようになるのです。笑いが戻るのです。

患者さんご家族も喜ばれます。嬉しさのあまり、涙を流す人や手を握って喜んでくれる人もいます。患者さんの喜びは医療従事者にとっても大きな喜びです。胸が熱くなり、今の仕事をしていて本当に良かったと、幸せを感じることはたびたびあります。

もちろん、いい結果ばかりではありません。治療の甲斐なく、厳しい結果に終わることもあります。悔いが残ることもあります。それでも、そこから学ぶこともたくさんあります。自分の未熟さを思い知り、このような経験を積むことで医療人として成長するのです。

皆さんの中には入学してからも、自分の進路に迷いがある人もいます。自分が選んだ道が正しいかどうかは誰もわかりません。言えることは、**選んだ道が正しいと思えるように努力**することです。医療の先輩として皆さんに伝えるのは、先ほどから言っていますように医療はいい仕事で一生の仕事とするに値する仕事であるということです。ですから皆さんは、選んだ看護・理学・作業の道を、選んでよかったと努力してください。

**石の上にも三年**という言葉があります。ちょうど3学科とも3年コースです。選んだ道を完走するために「**石にかじりついてでも**」という思いで、この三年間を歩んでください。

私は、毎週水曜日に新須磨病院のある神戸から松江にきています。そう機会はありませんが、学校で会えば気軽に話をしてください。学生のためなら、可能な限り相談にのるようにします。また、上記のメールに連絡していただいてもかまいません。返事は必ずします。その時は、皆さんのスマホがPCからのメールを受信できるようにしておいてください。

まだしばらくはコロナ感染が続きます。色々不自由なこともあると思いますが、学校生活をエンジョイしながらしっかりと学んでいきましょう。